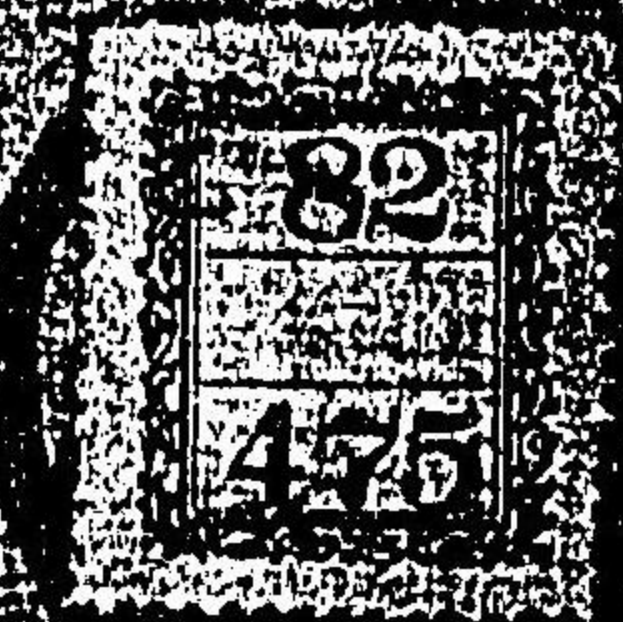
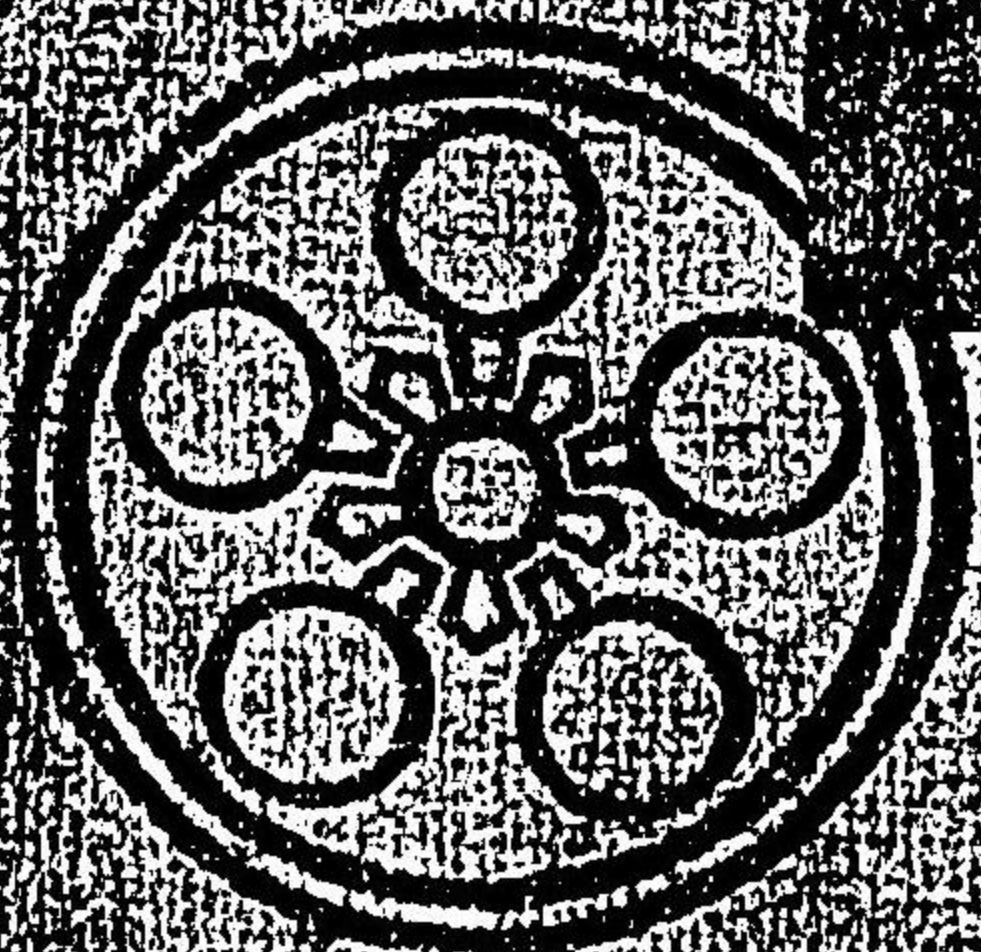
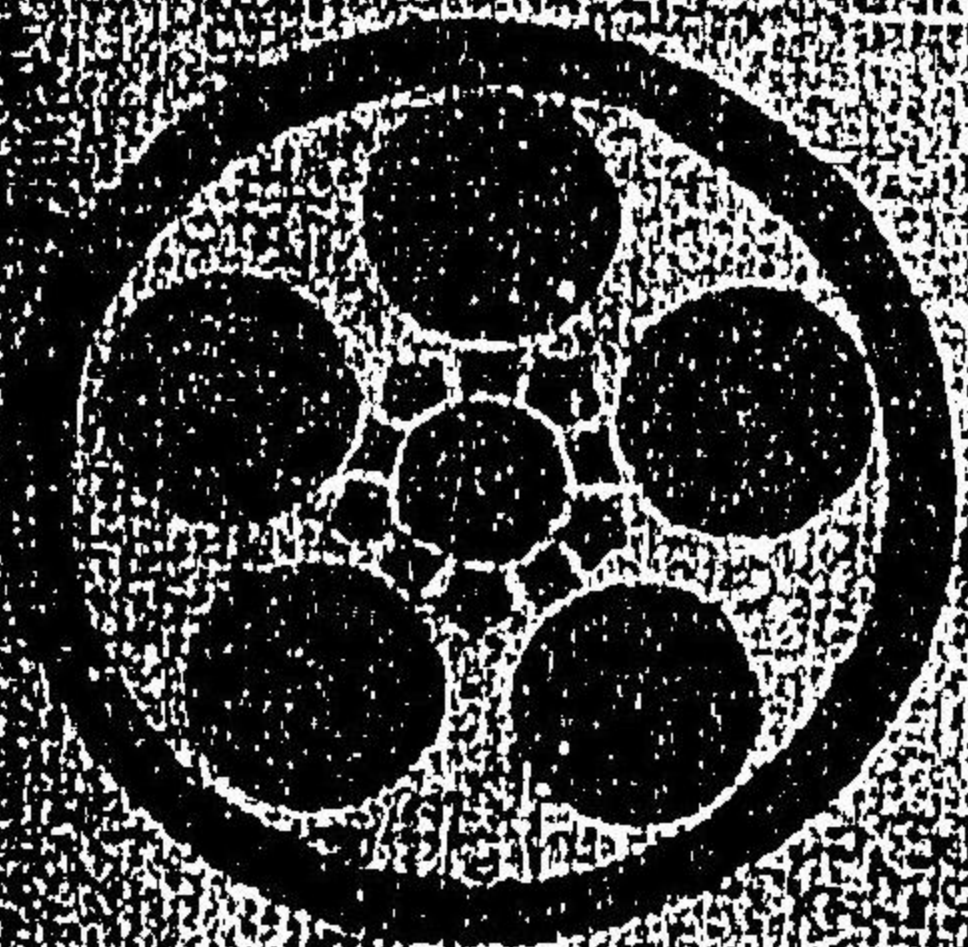


中西牛郎著

天理教顯真論



014437-000-4

特21-705

天理教顯真論

中西 牛郎/述

M36

ABB-0815



天理教顯眞論

第一章 天理教と國家との關係に就て

或人曰く、近頃世人が天理教に對する攻撃の

聲は日に高く、天理教も最早馬耳東風に附する能はず、何んぞか自教の主張を世に公けにして眞實無妄の宗教たる所以を示めさねばならぬと思はる。然るに世人が天理教に對する攻撃の要點は何づくにあるやと吟味するに、天理教は皇室を侮辱し國體を破壊するにありと言ふに在り、平生天理教の守護を

中西半郎口授

明治

87 1 7

内交

以て自ら任せらるゝ貴君に於ては之を何んと思は
るゝや御高見の程伺ひ度きものなり
中西氏答へて曰く宗教上に關するの爭論は何の時
代にも極端に流るゝものなり右皇室を侮辱し國體
を破壊すると言ふが如きは敢て珍しからぬ攻撃に
して我邦佛教各宗は之を最上無比の武器として十
五六年前までは基督教を攻撃したれども何の効能
もなかりしなりそは皇室を侮辱し國體を破壊すこ
いへばいかにも仰々しく忠愛なる國民をして激昂
せしむるに足るべく又政府をして狼狽せしむるに
足るべき様に思はるれども今日智識の進歩したる

國民や文明の政府は中々此等の空言大語に乗せら
れて激昂狼狽するものにあらず然らば天理教攻撃
論者の議論も今少しく進歩せねば吾輩の相手にな
りて山石磨玉の裨益もなきものなり然れども千萬
人中の一人は或は右の皇室を侮辱し國體を破壊す
るの説に惑はされて真正宗教の撰擇を誤るもの之
れなきにあらざるを保すべからざれば聊か一言の
勞を惜まず攻撃論者の愚蒙を破り呉れんものなり
扱ても皇室を侮辱し國體を破壊すとは何を捉へて
之を言ふや具体的に之が事實を擧げて示めさゞれ
ば空言大語に終はりて恰も空鉄砲を放つが如し蓋

し天理教攻撃論者の所謂ゆる皇室を侮辱し國体を破壊することは定めて故老の間に傳へられたる天理教の創世談に國常立尊は龍とか面足尊は大蛇とか其外八柱の神々を魚類になぞらへたる所に在るべし果して然らば是れ實に抱腹絶倒の至りなりよしんば右の創世談が教祖筆授の「御筆先」と稱する冊子に載せられたりとするも是れまた今日天理教の教權を代表する本部に於て認めて教典とするものにあらずれば恰も是れ基督教に於ける「アポクリファ」ス「即ち偽經の如く又儒教に於ける春秋緯の如く之を捉へて材料として基督教や儒教を攻撃すること

は能はざるべし何んとなれば是等は其宗教に於て認めて以て教典とする所のものにあらざればなり然れども「御筆先」や創世談の事は後に譲りて先づ宗教と國家との關係を述べし凡そ人類の關係は神に對するの關係より大なるはなし其の次は國家に對するの關係より大なるはなし第一の關係をば今日では之を宗教と言ひ第二の關係をば今日では政治と言ふて區別すれども文明未開の時代にありては此の二種の關係を混同して祭政一致或は政教一致なき名を附けて宗教に俗權を與へ政治に神聖莊嚴を副へしめたり然れども宗

六
教の眞諦は元來特殊なる一國民として神に關係する處に存せず乃ち世界人類として精神上永劫無限に存するにあることが明かになりたる上は宗教は國家を離れて別立せざるべからず又國家の本領は現世に於ける人類生活を統治指導するにありて現世の生活を超越したる神人の關係又は未來世界の事は之を宗教に譲らざるべからざるの眞理既に明かになりたる以上は國家は宗教を離れて自己固有の職分を施行せざるべからず是れ所謂政教分離の大義にして近世文明の國家が同じく認むる所なり乃ち我邦の如きも維新以來の大方針は着々として

七
此に向はざるはなしこれ舊來の佛教各宗は言ふに及ばず耶蘇教にあれば天主教にあれば「モルモン」教にあれば回々教にあれば婆羅門教にあればいかなる宗教にても苟くも帝國憲法第二十八條に依りて國家の安寧秩序を妨げず及び日本臣民たるの義務に背かざる限りは其の布教を放任して我々臣民に信教の自由を與ふる所以なりと知らずや天理教攻撃論者が我天理教を指して皇室を侮辱し國体を破壊すと言ふものは天理教教理信仰の範圍内に就て之を言ふか將た天理教の教會及び教徒が國家に對する行爲儀式等に就て之を言ふか若し教

理信仰の範圍内に就て之を言はゞよし天理教攻撃論者が認めて以て皇室を侮辱し國体を破壊するものありとするにせよ(實際は決して皇室を侮辱し國体を破壊するものにあらず)國家權力の立場よりしては之を攻撃することを得ざるべし何となれば其の所謂教理信仰は即ち吾輩の心内に存する信教自由の許す所にして國家監督權の立ち入らざる所なればなり加之のみならず天理教攻撃論者が皇室を侮辱し國体を破壊すと言ふものは祭政一致又は政教一致の時代にありてはイザ知らず今日となりては最早價值なきの説にして取るに足らざるなり

抑も攻撃論者が我天理教を指して第一皇室を侮辱すと言ふは上に述べたるが如く我邦古典即ち古事記や日本書紀に傳ふ所の天神七代地神五代の神々をば我教祖が動物になぞらへて説明したること第二國体を破壊すと言ふは右記紀二典の傳ふる創世談に我天理教の傳ふる創世談との相違にあることの外に更に根據あるべからず然れども知らずや記紀二典の大部分は今日に於ては既に原人時代の想像を見るべき神話と化し了り今日に於ては最早眞面目に此の神話を以て我皇室及び我國家の起源を説明するものなきことを但し伊勢大廟以下の如き

國家の祀典に係るものは古典傳説の有無如何に關せず儼然たる歴代祭祀の相傳に由りて皇室の祖廟國家の大廟たること明かなれば天壤無窮の皇運と共に益々崇敬せらるべし而して古事記や日本書紀に於て説ける神代の卷即ち創世談の如きは勿論正當なる歴史にあらざれば科學と合はず猶ほ之をして事實として我邦人民に確信せしめ據りて以て宗教學術の眞妄邪正を判斷するの標準となさん欲せば少くとも今日我邦人智進歩の程度をして之を二千年以前に挽き戻さざるべからざるなり是れ猶ほ今日の歐米人民に古代に於ける希臘羅馬の神話

を信ぜしめんご欲するものご何んぞ異ならんや今日我皇室及び我國家は斷じて其の基礎を神話又は宗教の上に置くものならず唯々其の萬國無比の國体といふものは萬世一系天壤無窮の皇統を奉戴する處に在り而して此の萬世一系天壤無窮の皇運と言ふものは天理教攻撃論者が妄想するが如く古典神話に基くものにあらずして教育勅語の所謂「我皇祖皇宗國を肇むること宏遠にして徳を樹つること深厚なり」ごの事實に基くものなり國を肇むること宏遠ごは徒らに時間的の悠久を意味するものにあらずして建國規模の宏くして遠きごを意味

十二
するものなり徳を樹つること深厚は是れまた人事以外にあらざりて人事以内にあるものなり何づれの處にか神話的事實を認めむ又何づれの處にか宗教的思想を認めむ是れ我皇室及び我國家が近世國家の精神と合ふ所以なり之を一言すれば我皇室は神話的皇室にあらざるなり我國家は宗教的國家にあらざるなり
若し我皇室及び我國家にして神話又は古典の上に基礎を置くものならしめば今日我邦に行はれつゝある一切の宗教は(本居平田氏等の所説に基く一派神道を除くの外皆是れ皇室を侮辱し國体を破壊

十三
するものごして之を禁止排斥せざるべからず否宗教のみならず天文地理の如き社會學の如き進化論の如き人類の起源を説明するの科學にして苟くも古事傳日本書紀の傳説を破壊すべきものは皆之を禁止排斥せざるべからず此の如くなれば我邦は再び鎖國攘夷の主義を斷行せざるべからず此に至りて天理教攻撃論者が天理教は皇室を侮辱し國体を破壊すと言ふ議論も始めて成立するを得べし此の如きは明治九年熊本に暴動を起したる神風連や又は興清滅洋の看板を掲げて各國の聯合軍を招き清國をして今日の危境に陥らしめたる義和團を以

て自ら任ずるものにして我日本帝國を危くすと言
 はんも却て滑稽なり
 先づ基督教に就て之を言はん到我々人類の祖先は
 亞當夏娃夫婦兩人にして二人惡魔の誘誑に陥りた
 るが爲めに今日世界一切の人類に罪惡の種子を遺
 したるが故に救主耶穌基督の代贖を必要とすこは
 其教理の根本とする所なり試みに畏れ多くも我皇
 室の御祖先も亦亞當夏娃の子孫なりやと問はゞ基
 督教徒は必ず答へて然りと言はん然らば天神七代
 地神五代の神々は如何んぞ問はゞ彼等又必ず答へ
 て此等神々にして果して此世に生れ出でたる日本

國民の祖先ならば亦亞當夏娃二人の子孫なりと言
 はん夫れ基督教の如き獨一眞神を信奉するの宗教
 に在りては獨一眞神即ち基督と父子の關係ある一
 神の外に他神を立ること許さず故に我邦記紀二
 典の神々にして若し神なりとせば基督教は必ず偽
 神と爲して之を排斥せん若し人なりとせば基督教は
 亞當夏娃の子孫なりとせん既に僞神なりとせば即
 ち是れ惡魔が我々人類を欺惑せんが爲めに神の假
 面を裝ふて此世に現出したるものごせん(天主教の
 教理に従ふ既に亞當夏娃の子孫なりとせば是れ罪
 惡を免れざるものなるが故に將來基督の審判を受

けざるべからず之を要するに基督教は記紀二典の
 神々に對しては之を惡魔とするか又は神たるの資
 格を剝奪して赤の人類とするか此の二途の外に出
 づべからず
 此の如き教理を信仰するものにして我邦記紀二典
 を信すべき謂はれなし而して今日基督教を認めて
 皇室を侮辱し國体を破壊するものとするは極めて
 少數なる頑固偏僻なる論者の外に之れあるべから
 ず而して文明及び智識の進歩は隣れにも此輩をし
 て生存せしむるを許さず既に其の無上經典とする
 古事記日本書紀の神代の卷の如きすら無遠慮なる

批評を下だし今は正當なる歴史として之を信する
 ものは偏屈迷信なる神道者流の外に求むべからず
 而して我皇室及び我國家の基礎が之に由りて動か
 ざるものは我皇室及び我國體は斯かる薄弱なる基
 礎の上に立つものにあらざればなり

抑も帝國憲法第二十八條信教自由の條の如き世に
 之を曲解するもの多しご雖も苟くも虚心平氣を以
 て之を見るごきは法文の旨趣精神明白にして疑ふ
 可らず先づ本條の「信教の自由を有す」ごあるは是れ
 正條なり而して「安寧秩序を妨げず及び臣民たるの
 義務に背かざる限りに於て」ごあるは正條の制限に

過ぎざるのみ即ち安寧秩序を妨ぐと言ふは是れ教會及び教徒が行爲の外面に顯はれて或は風俗人倫を亂り或は治安妨害と認めらるゝ事變を引き起したる上に於て始めて斯く言はるべきものなし其の行爲が外面に顯はれざる以上は教理の善惡邪正に於て一切干涉する所なきなり又臣民の義務に背くと言ふは即ち信教自由の名義によりて法律に違背するを得ずと言ふ意義にして適例を擧ぐれば彼の「モルモン」教が一夫多妻を以て教理とするが如き是れなり日本帝國の法律は重婚を禁ず即ち一夫多妻は帝國法律の許さざる所なればいかに「モルモン」教は

一夫多妻を以て教理とすと言ふも日本帝國に來りて布教する以上は此の教理は拋棄せざるべからず是れ即ち本條の明かに掲げて禁ずる所なればなり今日我天理教にして以上の二事即ち國家の安寧秩序を妨ぐるの行爲あるか又は日本臣民たるの義務に背くの行爲あれば之を捉へて皇室を侮辱し國体を破壊すに攻撃するも亦可なり然らずんば又如何なる理由に基きて之を攻撃せんとするや天理教の創世談が記紀二典の傳説に相違するを理由として皇室を侮辱し國体を破壊すにせば基督教にあれば佛

教にあれ一切宗教は皆之を排斥せざるべからず殊に「ガルウ井ン」氏我々人類の祖先は猿猴の一種に出づると言ふが如き進化説は最も之を排斥せざるべからず此の如して文明の宗教文明の學術皆之を日本帝國の外に驅逐せざるべからざるなり豈獨り天理教のみならんや

以上は天理教の創世談が我邦古典の傳説に相違するここを假定して立論したる次第なるが更に考ふべきは教祖の著作と稱する「御筆先」はいかなる性質のものなるか又天理教の創世談に神々を動物になぞらへたるはいかなる意義なるか苟くも天理教を

研究するものは此の二點に就て熟考せざるべからず

總じて世界諸宗教の教祖なるものは萬古不變の教理を有し之によりて暗黒なる人類の命運を照らすここは疑ふべからず即ち釋尊の四諦十二因緣耶蘇の天父天國人類同胞等是れなりと雖も教祖自己の盡力する所は燃ゆるが如きの熱心と溢るゝが如きの大仁愛心とを以て實際人類の救済に従事し教理の組織の如きは後人に待つもの多し即ち基督教の組織は教祖耶蘇に成らずして約翰保羅を始めとし「オツガスタン」以下の教父に成り佛教の教理組

織は教主釋尊に成らずして馬鳴龍樹以下の大徳に
成りたるが如きは其一例なり然れども教主なるも
のは兎に角一教の中心たるを以て教主没後教典の
類を著述するには必ず之を教主の自説に假托して
以て教主の信仰を得んとするが古へより宗教の通
慣なり而して又反對に立つの宗教は他宗教教主が
自著又は秘説といふに名を托し其の宗教を攻撃す
るの材料とするところあり是は甚しき奸策にして宗教
家には似合はしからざるの手段なり一例を擧て之
を言へは世に日蓮眞實傳といふものあり其中に曰
く日蓮上人は天姓英雄の人にして其宗教家となり

たるは止むを得ざるの次第に出でたるものにして
其の好む所にあらずされは折りもあらば謀叛の旗
を揚げて日本國を自己の手の中に入れん心欲する
の野心は一代の間止まざりしなり大元蒙古國が日
本を襲はんとするの企てあるや日蓮上人は時機到
來せりと喜び勇んで蒙古國に内通して其の軍兵を
日本に引き入れ蒙古をして先づ日本國を攻め取ら
しめ自己は蒙古の藩屬王となりて日本國を占領す
るの計謀を運らしたり云々是れはこれ淨土眞宗の
或る僧侶が日蓮宗を攻撃せんが爲めに名を日蓮宗
徒の著作に假りたるものなることは識者の擧げて

看破する所なり宗教には古へより奸策も行はるゝものなればウカト宗教上の著作には信を置かれぬものなり

我が天理教の如きも教祖四十歳の開教以來種々異類の人物本部に集り山伏あり行者あり神官あり眞言僧あり淨土僧あり皆教祖の名譽高く道德高きに附屬して銘々自己の教理を普及せんと欲し種々の著作物をなしては之を教祖の製作と唱へ大に天理教の教理を紊亂せんとするの傾向あるより本部に於ては此の弊害を患へて教徒に命じ此等の著作物を焚き捨てしめたること前後幾回なるを知らず而

して間には此等の偽作を秘藏して本部に差出さざる向きも少からず今や「御筆先」の如きも教祖の著作と稱するも本部に於て之を認めて教典とせざるは何等の理由あることにて斯く本部に於て認めざる所のものをば局外の徒が之を強ひて教祖の著作なりと之を以て天理教を攻撃するの材料とせんこと欲するはいかにも心得難き次第なるべしよし此の如き著作が假令ひ教祖の眞作なりとするも本部に於て之を認めざる以上は終に藏中の腐寶となりて其の功用を失ふべし或人は曰く「御筆先」は正眞正銘天理教祖の著作に相違なきも其の中には世に出せ

ば不都合の條々數多之れあり辯解に窮するがゆへ
に之を秘して世に示さず否假令ひ局外の人が其の
書物を借覽するも堅く之を秘して示さずと諺に言
はずや正法に不思議なしと今日の世の中に自教の
教典を他人に示めさざるものが何處にあるか日蓮
宗なれば世間の人が一人にても法華經を讀むもの
多からんことを欲し淨土眞宗なれば世間の人が
一人にても三部妙典を讀むもの多からんことを
欲し基督教なれば世間の人が一人にても「バイブル」
を讀むもの多からんことを欲するは是れ宗教弘
通の常態なり尤も眞言宗の三部經中金剛頂經蘇悉

地經の如きは予が先年京都東寺に於て該宗長者原
心猛師の指南を受けし時に受職灌頂のものにあ
ざれば此の二經は授け難しと言はれたれども是れ
は唯々事相傳授の上に就てのことにして其の經文
は世間に發賣し誰れが讀みても差支なきなり然ら
ば天理教が「御神樂歌」は既に刊行發賣し言はど認め
て以て其の教の教典とするにも拘はらず獨り「御筆
先」のみは假令ひ今日教徒の中に其の書物を秘藏す
るものあるにもせよ認めて以て教典とせざるは理
由ある事と知るべし而して局外の人がたま〜此
の書物を手に入れたりして鬼の首でも取りたるが

如く功名顔し此の書物さへ手に入れば天理教の死
 活は我が掌中にあり杯ご立ち騒ぐは餘り時代めき
 て殆んど狂言芝居に似て面白しと言はんより馬鹿
 らしと言ふが適當なるべし
 天理教祖の神に關する根本觀念は理想的方面に於
 ては絶對無限にして而かも世界の眞世界善世界の
 美を統合したる自存者なり活動的方面に於ては生
 々活動にして吾人の心靈ご感應交通をなす自觀者
 なり是れ文明最高の神にして未開時代の多神教に
 あらず此の如き神の觀念を有する天理教祖にして
 所謂十柱の神々を動物になぞらへたるは是れ表號

的にあらざれば默示的なるべし嘗て西洋の或る學
 者は世界各國の宗教が多く蛇に縁あるを以て蛇の
 崇拜を人類宗教の起源となし之れによつて宗教的
 現象を説明せんと試みんとして識者の笑を買ひた
 ることあり假令ひ教祖が國常立尊を指して龍なり
 面足尊を指して大蛇なりと言ふたりとて此等の神
 々を直ちに龍蛇なりご心得るは是れ未だ宗教上表
 號的默示的の意義を知らざるものにして共に宗教
 を談ずるの資格なきものなり抑も世界の森羅萬象
 何物か是れ神の性徳の發現する所にあらざるもの
 を吾人人類の凡平なる眼より之を見れば龍の如き

蛇の如き人類より下等にして卑むべく悪むべきを
見るのみ然れども一たび神秘の眼を開いて之を見
れば無量幽玄の意義ありて存す此の神秘的意義を
解せざるものによりては表號的默示的皆無意義と
なる「セツキスピヤ」言はずや蝦蟇の頭には寶玉を藏
むは是れ世界の森羅万象之を研究すれば研究する
程無量幽玄の意義を開顯するを言ふなり莊子言は
ずや道は糞土に存すは是れまた箇中の消息を洩ら
すものなり眞言宗の如きは地水火風宗識を以て六
大とし此の六大即ち是れ廣大無際諸徳圓滿にして
大日如來秘密莊嚴心の發現なりとせり然れども此

等神秘的意義は我々凡夫が容易に解するにあらず
れは諸宗教共に妄りに之を談ぜず我天理教祖も亦
然り然るに今や局外宗教上の學識なきもの此の表
號的默示的を捉へて神秘的意義を解する能はず以
て天理教を攻撃するの材料となさん欲す此の如
くんは吾輩も亦天下の各宗教を攻撃するの材料な
きに苦まんや
此の如くなれば我天理教が皇室を侮辱し國体を破
壞すと言ふは何づれの點よりして見るも皆確據な
き空言大語にして一として取り上ぐるの價値ある
ことなし而して教祖が建立する所の我天理教は是

れ人類救済の世界教なるも我日本帝國に發達したるの宗教なるがゆへに忠君愛國の感情は自ら其中に溢れ日本無比の宗教たることは公平無私に天理教を研究したるものが同じく認むる所なり昔し基督教の保羅は其の教徒を迫害し耶蘇を殺さんごしたるの一人なりしが後に至りて大に基督教の眞理に感じ基督教無二の勇將となりて終に其の教の爲めに殉死を遂げて萬世に仰がれたり吾輩は今日の天理教攻撃論者が眞正に我天理教の眞理を研究して我教の保羅たらんことを熱望するものなり

第二章

天理教と文明との關係に就て

或人問ふて曰く世人は十九世紀の末路を稱して信仰衰頹の時代なりと言へり誠に然るかな誠に然るかな單に之を我邦に就て見るも到る處に宗教衰頹の現象を見ざるは無し佛教各宗が往々内訌を生じて醜態を世間に暴露し志納月に滅じ信徒年に滅じ其の稍々新智識あるものは何づれも佛教今日の状態に満足せずして佛教改革を唱へ或は新佛教の旗幟を翻へし舊佛教をして末路に近づかじめたるは素より言ふ迄もなく乃ち甚きは新來の基督教各派

できへも海外より少からざる布教費と多くの宣教師
 師を携へ來りて熱心に布教するにも拘はらず悉
 く失敗し一も成功するものなきは豈宗教衰頽の徴
 と謂はざるべけんや然るに斯る宗教衰頽の中に於
 て天理教のみ俄に勃興すべき理由なし想ふに天理
 教の如きは迎も宗教として佛敎又は基督教と肩を
 並ぶべき資格なし察する所是れ一種の淫祠にして
 其の盛大といふは稻荷不動辨天聖天等の繁昌と同
 様なるべし若し天理教にして一旦此等の仲間より
 進んで宗教に列するあらば是れ盛大に似て實は自
 滅を招くものならずや何となれば今代は是れ宗教

衰頽の時代にして天理教は又大宗教たるの資格を
 備へざればなり此の事は貴君に於ていかに思はる
 べしや
 中西氏答へて曰く天理教の盛大は一時の流行に
 じて眞實の勢力にあらざれば近き將來に於て衰亡に
 歸すべしと言へるは世間の自稱識者が往々口外す
 る所にしてこれは貴君一人の御説にあらざるなり
 然れども是れは元來天理教の實相を知らざるもの
 と斷案なり即ち天理教はいかなる特色を有するか
 いかなる本領を有するかいかなる眞理を有するか
 の問題を研究せざるものと斷言なり

彼の稻荷や辨天や不動や聖天の繁昌を以て我天理
教に引き較べて言ふものは是れ畢竟我天理教の教
理を知らず又其道德の感化力を知らざるものなり
試みに見よ世間の稻荷や辨天を信仰するものは金
銭が欲しいとか子供が欲しいとか病氣の平愈を祈るこ
か厄難を逃れたいとか皆是れ現世の利害禍福のみ
を目的とするがゆへに唯々禮拜の儀式のみありて
宗教の骨髓たる教理即ち此の世界はいかにして成
立するか世界の終極目的はいかなるや神の性徳は
いかなるものなるや我々人類の命運はいかなるも
のなるや神と人との關係はいかなるや世界はいか

にすれば平和圓滿になりて人間はいかにすれば幸
福なるや世界の禍害はいかなる原因によりて生ず
るや罪惡と禍害とはいかなる關係を有するや一こ
して心得るものなし唯々神佛の不可思議力に依頼
して息災延命家運長久を祈願するのみ而して稻荷
ごはいかなる神なりや辨天ごはいかなる菩薩なり
や之を知るものは千萬人中に一人もあらざるなり
然らば此等の信仰を以て我天理教と同様に思ふは
是れ夏蟲氷を知らざるものなり
夫れ天理教には教理あり道德あり禮典ありて儼然
たる文明宗教の資格を備へ佛教や基督教の世界的

大宗教と立ち並びて一步も譲らざるものなり然れば一たび其の教に入るものは其の信仰の堅固なること大磐石の如くいかなる艱難辛苦をも耐へ忍びかりそめにも道の爲めであれば火の中水の中剣の中に入りても厭はず一死を以て教に殉するの勇氣あり此の勇氣はいづくより生ずるやと問へば信仰より生ずるなり此の信仰はいづくより生ずるやと問へば活ける眞理より生ずるなり此の眞理はいづくより生ずるやと問へば神より生ずるなり然れば今日日本帝國に於て内外新舊種々の宗教ありと雖も我天理教の如く新に起りて勢力を得たるものは

なし此の勢力の本源は單に稻荷辨天不動聖天等の如きものご比類すべきや假令ひ學者にあらずとも少しく常識あるものは誰れしも然りごは答へざるべし
 且つ夫れ佛教や基督教の如き世界的大宗教にして數千年間世界多數人心の信仰を支配したるものさへも漸々衰運に傾き來りつくあるに獨り我天理教が旭日の昇るが如く榮へ進むものはいかなる理由なるや此の理由を説明するには天理教と文明との關係に立ち入りて少しく辨ぜざるを得ず
 抑も現代文明の特色は人智の進歩に在り人智の進

歩は種々の發明を促がし大に人類物質的の幸福を
進め世界の局面は日に月に變化して絶大不可思議
なる勢力を有するのみならず交通の進歩によりて
東西兩洋數千年間各々世界の一方に發達したる文
明は此に始めて面會を遂げて互に長短優劣得失利
害を知るのみならず又各國民各民族は交通開放に
従つて入れ交り之によりて思想感情風俗習慣の上
に影響を及ぼし之が結果として自然に自由討究の
精神をも促がし過去及び現在の事物に對するの批
評と言ふこと大に行はれ是れまで幾千年の久き人
類多數の信仰を司配したる大宗教即ち儒教佛教基

督教の如きものは殘酷なる批評に逢ふて大に信仰
の力を失ひたるのみならず其の短處も亦従つて明
白になり今日は最早宗教最後の時代となりたり加
之のみならず今代科學の最大精神とも言ふべきは
即ち進化説にして此の進化説と反對するものは盡
く勢力を失し佛教が先年嘗て一時勢力を得たりし
が如きの觀あるは此の進化説に一致すと思はれた
るに存し又基督教が今日まで勢力を失はざるは此
の進化説と色々の和睦を試みたるに存するが如し
然らば昔の世は宗教が世界萬事の眞偽善惡を判別
するの標準なりしがごも今日の世の中は世界萬事

の眞偽善惡を判別するの標準は既に宗教以外に移り乃ち宗教其物も亦此標準によりて其の眞偽善惡を試験せらるゝとこなれり此の標準は何んぞや即ち進化説是れなり然らば又進化説とはいかなるものなりやと言ふに是れは科學の事實を基礎として築き立てられたる一大學説にして之を説明するは中々詳細の説明を要すさればよく一小冊の及ぶ所にあらず然れども其の宗教と關係する所は人類の向上進歩を以て確乎たる事實に基くの理想と認めて從來宗教が説く所の人類墮落説とは殆んど反對に立てり然るに佛

教にあれ基督教にあれ其の教理に一部の根本改革を加ふれば此の進化説と一致せしめて將來とても人類多数の信仰を支配することの出來得る見込なきにあらざれども今日までの教理説明にては到底衰運を挽回するの見込は立たざるなり是れ現代文明の進歩ごにも古昔傳來の宗教が日に月に勢力を失ふて世は益々無宗教無信仰ご成り行く所以なり尤も文明と言ふたればさて我々人類の性質が丸で別物ごなる譯に非ず却て人類性質が益々發達して完全ごなる譯なければ人類靈魂の食物たる宗教か益々有用ごこそなれいかでか無用ごなるべきぞ

然るに古來傳來の大宗教が益々衰へ世の中が無宗
教無信仰となる理由は右申す如く文明の大勢と相
反對して人心の爲めに厭かれたるに外ならぬなり
此に氣の附かぬ我國佛教各宗の如きは誠に氣の毒
なり然れども天に順ふものは興り天に逆ふものは
亡ぶるが即ち是れ自然の大法則なれば興るものは
興るに任かせ亡ぶるものは亡ぶるに任かせて我々
人類は唯々真理の宗教を擇びて之を信ずるあるの
み偕て佛教と基督教とは一は日本舊來の宗教一は
新來の宗教なるにも拘はらず皆是れ世界の大宗教
なり然るに此の宗教が今日になりて互に一長一短

ありて兩教共に改革を加へざれば到底衰運を免れ
難きことは先頃私が臺灣にて或る人の質問に答へ
それを臺灣民報の記者が其の紙上に掲載したるも
のにて私の愚見は粗ぼ知るべきであります依て其
の中より眼目を引き抜いて左に示めします
問 足下は近頃「世界三聖論」と題する一書を世に
公にせられたりご承りましたが拙者はまだ其の
書を一讀いたした事がありません、何卒其の要領
を拜聽致したいものです
答 「世界三聖論」ですか、あれは拙者が殆んど十年
以前、大阪に在りしときに著作したるもので、爾來

拙者が宗教に對する思想は、著しく進化して居り、
 ますれば、三聖論は詰り拙者今日の宗教思想を表
 見したるものではあります、それに今頃東京の
 去る書肆が拙者の訂正をも乞はずして、猥りに再
 版に附しましたは、拙者に取りては實は甚だ迷
 惑の至りであります
 問 然らば足下が今日抱有せらるゝ宗教思想を
 少しく承はりたいものです
 答 宗教問題は範圍廣大なるものなるか故に、何
 から御話して宜いやら困りますすが、何んでも足下
 御疑問があれば、拙者今日宗教上の見地から御答

へ。する。こと。に。致。しま。し。や。う。
 問 先づ伺いたきは基督教の事でありすが、足
 下は基督教に就ては、そもく如何なる御高見を
 有せられて居りますか
 答 基督教は世界の大宗教にして之に對する研
 究は歴史的方面よりするの、教理的方面よりす
 るの、道德的方面よりするの、色々にあります
 が、先づ拙者今日の處は、基督教の眞善美を十分に
 認め居ると同時に、其の缺點をも亦認めて居りま
 す、故に拙者は耶蘇基督に對しては、熱心なる崇拜
 者の一。人。なる。に。相。違。なき。も。決。して。基。督。教。信。徒。で。

はありませぬ。
 問 足下が耶蘇基督に感服せらるゝところは果
 して那點に在りますか
 答 全体拙者が耶蘇基督の天啓經典と稱する福
 音書に就て捨つる所のものは十の七八にして、取
 る所のものは僅かに十の二三に過ぎませんが、其
 の最も取る所のものは、所謂有名なる山上垂訓の
 一節であります、即ち馬太傳第五章に曰く、虚心者
 福矣、以天國乃其國也、哀働者福矣、以其將受慰也、溫
 柔者福矣、以其將得土也、饑渴慕義者福矣、以其將得
 飽也、矜恤者福矣、以其將見矜恤也、清心者福矣、以其

將見上帝也、施和平者福矣、以其將稱為上帝子也、爲
 義而見窘逐者福矣、以天國乃其國也、云々と有ます、
 次は約翰傳の第一章に元始有道、道與上帝共在、道
 即上帝、是道元始與上帝共在也、萬物以道而造、凡受
 造者、黨不以之而造、生在道中、生也者、人之光、光照於
 暗、暗者弗諳之、(中略)是非由血氣、非由情欲、非由人意
 而生、乃由上帝也、夫道成人身、居於我儕之間、我儕見
 其榮、誠天父獨生子之榮、以思寵以真理而滿也、とあ
 ります、此中前語は、耶蘇基督が親ら教へたる言葉
 に違ひありせまぬが、後語は、耶蘇基督の言葉では
 なく、即ち約翰が耶蘇基督を頌賛したるの言葉で

あります然れども約翰の説は即ち其の淵源は耶
蘇基督より出でたる説に違いありません、是れ拙
者が前後共に耶蘇基督の教訓を認め、之を批評
する所以であります
抑も耶蘇基督が以上の教訓を垂れたる所より之
を見ますれば、確に宇宙の活きたる真理を捉へた
る人であると思はれます、否此の活きたる真理も、
一體の人と思はれます、されば彼が世界幾億の人
類から神子として、救世主として、大豫言者として
隨喜渴仰せられ、精神界の最革命をして、感化不滅、
二千年後の今日に至るまで信仰を支配しつゝあ

るものは、確に原因なきにしもあらずであります、
然らば此の活きたる真理は何んでありますか、
是れ實に足下に於ても御一考なればなりせん、
耶蘇基督が宇宙最高の活ける真理を我に捉へて、
之を自在に發揮し、一切世界の罪惡を驅逐し、新天
地を打開し、人類をして光榮なる位置に安住せし
めんことをしたるは、上に引ける馬太傳の第五章、約
翰傳の第一章、ご玩味すれば明白であつて、正に是
れ耶蘇基督の眞價が發露する所であります、其故
何んかなれば、耶蘇基督は確に道の眞原を認め、
居ります、道の眞原とは外でなく、佛教の語を假り

て之を言へば、彼れは「實の如く自己を知りて居り
ます、即ち耶蘇基督自己の精神は、生命ある、意志あ
る、目的ある、宇宙無限の實在に、智慧的に、道德的に、
神秘的に相通じ而かも自己の精神に無限の實在
は一體なるを認め、自己以上の自己が自己に
存して、動靜云爲の動機たるを知り、又其精神不滅
たるを知り、一切罪惡の制伏者たるを知り、所謂天
國も上帝も自己に存するを知りて居ります、故に
耶蘇基督の第一義諦より言ふときは、其天國云
ひ上帝といふものは、我にありて外にあるものに
あらず、一旦本源に洞達して活ける眞理を捉へた。

るものより之を言ふときは、我れ即ち上帝也、我れ
即ち天國也、我れ即ち神子也、然れども箇中の消息
は正に是れ佛教の所謂唯佛與佛の境界にして、到
底假相に繫縛せらるゝものゝ悟り得る所にあら
す、況んや言語文字の末に拘泥するものに於てを
や、試に御一考あれ、馬太傳第五章の虚心、哀慟、矜恤
清心、溫柔、平和等は、那處より現れ來るぞ即ち是れ
我が精神より湧出づるなり、然らば則ち我が精神
裡に本來無量の功德藏を有するを知るべきなり、
中庸の所謂中和を致して天地位し、萬物育すとい
ふものは、正に是れ箇中の消息を洩らすものにあ

らずや、
更らに又た一步を進めて御一考あれ、以天國乃其
國也。こは何んの意味なるぞ、以將見上帝也。こは
何んの意味なるぞ、天國假令客觀的に存在すこす
るも、虚心なるものにあらざれば之に入るを得べ
からず、上帝假令ひ客觀的に存在すこするも、清心
なるものにあらざれば之を見るを得べからず、然
らば上帝及天國と交通するものは唯だ精神ある
のみ、佛教に若以色列我、以音聲求我者、此人行邪道
とあるは正に此の眞理を道破するものにあらず
や、然らば一切人類は其の基督教を信ずるこ否こ

を問はず、天國の主たるべき權理を本來自己に有
するものなり、亦上帝の子たるべき光榮を本來自
己に有するものなり、苟くも耶穌基督の意を擴め
て之を言へば、耶穌基督のみ豈に獨り天國の主と
せんや、耶穌基督のみ豈に獨り上帝の子とせんや、
一切人類皆是れ天國の主なり、一切人類皆是れ上
帝の子なり、馬太傳の第五章、尤も痛快に此意を言
ふ、然るに耶穌基督死してより千有餘年の久き歐
州賢哲の士、皆滔々たる愚俗迷信の渦中に捲き込
まれ、直ちに耶穌基督の心殿に募入して、直指人心
の無上價寶を獲る能はざるは、誠に遺憾の至りて

ありませんか
 次に約翰傳第一章に至りては、深玄幽奥、古來基督
 教の大家が種々の解釋を下たし、紛々聚訟する所
 であります。が拙者が最も公平に解釋する所を以
 てすれば、是れ即ち心佛及衆生、是三無差別の眞理
 を示めしたるものであります。所謂道は希臘の
 原語「ロゴス」即ち道理若しくは智慧の義にして、佛
 教の理智を總べて言ふ心なるものは、是也。上帝は
 即ち佛也。生は即ち衆生也。此三者一體の眞理は、
 彼れ馬太傳第五章の説く所。正に一致して居り
 ます。是れ拙者が上に此語は約翰が耶穌基督を頌

賛したるものなれども、其の淵源は耶穌基督より
 出でたる説にして、即ち基督自己の説と認めたる
 所以んであります。
 問 御説の如くなれば、耶穌基督の説は即ち直ち
 に釋迦牟尼の説であるかの如くに思はれますが、
 然らば、耶佛二教は本來無差別なるものか。此處篤
 と御辨明を承りたくあります。
 答 そこです。宇宙人生の大眞理は、之を認むるも
 のにこそ、深淺全偏の差別あれ、眞理其物に至りて
 は、本來古今東西の差別なきものなれば、耶穌基
 督と釋迦牟尼とが同一の眞理を見たりとて怪む

に足らん譯であります、否、獨り耶蘇釋迦の大聖の
みならず、我々も雖も髣髴として、此真理の影を見
て居ります、されども、耶蘇基督と釋迦牟尼との差
別は頗る大なるものにて、神の性質に關する理想
又此理想を實現するのの上に於ては、全く違つて居
るに申しても、差問へはなき程です、此の差別は即
ち後來耶佛二教が東西諸國に及ぼしたる感化に
よりて判然見るべきであります、併し此事を御話
致す前に於て、耶蘇基督が聖靈によりて孕まれ、五
個の餅を以て五千人に與へて飽かしめ、又十字架
上に釘せられ、既に死して三日目に復活したるが

如き奇跡は皆是れ或る深奥なる意義を表顯する
の譬喩として見れば、大に味あるも、之を實事とし
て見れば、最早今日の智識進歩したる時代には信
じられぬといふとを申上げ置かねばなりません、
此等奇跡は基督教の初期時代にありては勿論實
事として信ぜられたるのみならず、四福音の記者
即ち馬太馬可路加約翰も斯く信じて書に筆した
るに相違なきも、今日に至りては耶蘇基督の教訓
は、一層高等の真理を顯はし奇跡の上に基く最早
幼稚なる信仰時代にはありません、耶蘇基督は約
瑟馬利亞の間に於て生れたる男子とするも、其の

神子たるの價值は之によりて減ずるわけではあり
りません、五個の餅を五千人に與へずごするも、其
は教の眞理は之によりて疑ふべきわけではあり
ません、既に死して三日目に復活せずごするも、其
の精神の不滅は之によりて打ち消すごの出來
るわけのものではありません、されば拙者は四福
音の奇跡に關するものは一切之を抹殺するか、然
らされば或る深奥の意義を表顯する譬喩ごして
之を解釋したきものご思ふのです、是れ則ち妄想
を打破して眞理を開顯するものにして、此の如き
は耶蘇基督の教敵でなく、却て其の忠臣であるか

ご思ひます、これ拙者が福音書に就て捨つる所は
十の七八にして取る所は十の二三であるご申し
た所以であります
然らば是れより、耶蘇基督が神に關するの理想及
び此の理想を實現する方法が他の宗教、殊に佛
教と違つて居る基督一家の特色、本領を少しく御
話することにご致しませう
問 然らば先づ耶蘇基督が神の觀念を伺ふご
に致しませうか
答 愚見を陳べませう、一體拙者が今日主持す
る所の字宙觀はモニズム(即ち一元論)であります

が拙者は此のモニズムを以て人類最高の宗教観
を信じ更に之を以て耶佛二教を參較致しまする
に、佛教は宇宙萬有の裡面に於ける一致を説き之
を名づけて眞如といひ、實相といひ、涅槃といひ、而
かも之を心識現象の底に發見したる所は誠にモ
ニズムの絶頂に達したるものにて、其の説明の如
きは哲學的形式なり、此點より言へば佛教ほご進
歩したる宗教はなからうと思ひます、然れども又
他の方面より之を考ふれば、佛教の所謂實相なる
ものは虚無寂滅でありまして、精神的生々的のも
のではありません、從つて其の所謂一致なるもの

は神人の關係を恣にし、人格の實在を無にし、世界
萬物の起滅を泡沫に比し、要するに、精神的であり
ません、又生々的でありません、是れが佛教の大缺
點であらうと思ひます、此の缺點を補ふものは基
督教であります、がゆへに、將來最高の宗教なるも
のには、耶佛二教の結婚から生ずるだらうと思ひま
す、
耶蘇基督は、愛を以て神人の一致を認め、居りま
す、即ち上帝は人類を愛し、人類は又上帝を愛す、是
れ則ち上帝と人類とが本來同性なる所以にして、
兩者の一致は、精神界裡に行はれて居ります、これ

が基督教の一致は、佛教のそれの如く、虚無寂滅で、
はなく、精神的生々的である所以である。然れ共基
督教の神も、舊約全書に説くか如き個體的な神であ
りては、私の所説には合ひません。私は即ち耶蘇基
督が彼の馬太傳第五章及び第十五章に説く所に
據りて、斯く斷言するのであります。されば耶蘇基
督以前の猶太人民及び其の豫言者等が説く所の
神人關係は、私の取る所ではありませぬ。亦耶蘇基
督以後基督教會多くの神父が説く所の神人關係
こそ私の取る所ではありません。私は唯だ真正體の
耶蘇基督を取るわけです。

以上は耶蘇基督が神の理想であります。が、耶蘇基
督の世界觀に至りては、彼れは世界末日の審判を
説き、死後の天國及び地獄を説き、如何にも厭世主
義の氣味ある様な所あれども、これは念ふに其の
時代、愚俗迷信の徒に與へたる方便的警告に過ぎ
ないのでありて、耶蘇基督の第一義諦に、馬太傳第
五章に明言するが如く、上帝及び天國を心内に求
めて、而かも此の理想を直ちに人類世界に實現せ
しむるの點にあるか。ご思ひます。佛教の如きは厭
離解脱を以て目的とするがゆへに、其の理想は圓
滿莊嚴なるにも係はず、人類世界を活動し革新

し、進化するの勢力は甚だ薄弱なる様に覺へます
これは即ち佛教が神に對する觀念より流れ出づ
る自然の結果にして致方はありません、されども
斯く申し上げたれば、直ちに耶佛二教の優劣
を斷定したり。ご御推察ありては、餘り大早計であ
ります。
次に耶蘇基督が重要な一の教訓は、罪惡の説で
あります。が、是れは私がモニズムを基礎として、人
類の向上進化を信ずる主張とは、少しく一致し兼
ぬる様に思ひます。然れども拙者が「世界の光」とし
て最も崇拜する耶蘇基督の説にして、漫りに眞理

に悖る様なことはなからうと思ひますれば忌憚
なく愚見を述べて御批評を仰ぐことに致しまし
やう
人類墮落説と人類進化説とは、今日の宗教思想を
新舊に分界するの兩大國旗であります。前者は古
宗教の主張する所に、して、後者は科學及び哲學の
主張する所であります。されば佛教に流轉輪廻こ
か、正像末の三時ごかの教理あり基督教に我儕人
類の始祖たる亞當夏娃が神意に逆つて罪を犯し、
樂土から放逐せられたごの教理あるもの皆是れ
人類墮落説であります。人類墮落説なるものは、我

々人類をして自然進化の成行に放任せしめ、超自然的な作用を施して外部から之を救はなければ、人類は益々罪惡の海に沈淪して、生命光明を失ふべし。こいふ説にして此の説や近世科學によりて發明せられたる人類進化説、即ち人類は劣等動物から天然淘汰の作用によりて、漸々向的に進化し、將來精神的最高等の文明に達すべし。こいふ説は正反對であります。然るに此進化説は元來一部科學の發明に過ぎざれども、今や心理學、社會學は勿論、哲學及び宗教の範圍まで擴張せられ、殆んど不可抗的勢力を有し、哲學にあれば、宗教にあれば、人類

進化説に反對するものは恰も物理學上重力の説に反對するが如く、忽ち世界の信念を失ふに至らん。こするわけです。故に佛教でも、基督教でも、今日衰頽に傾きつゝある大勢を維持し、現代の最も進歩したる世界觀に投合し、以て之が挽回を計らん。こ欲せば、其の人類墮落説に關する一部局を改造するの必要があります。所謂現代宗教の危機は、他ではありません。即ち此事であります。然るに茲に困難の問題は、總べての宗教は、濟度を以て目的として立つて居ります。而して濟度は、我々人類に必然附帶せる罪惡の實在するが爲めで

す故に罪惡なければ濟度なく濟度なければ宗教の必要なきわけであり、而して又此罪惡は人類状態の不完全なる結果であつて、若し夫れが向上進化と共に漸々消滅するならば、宗教は不必要に歸する道理であります、斯の如くならば、宗教なる者は、人類墮落説に伴ふものでありて、人類進化説に伴ふものでなきかの様に思はれ、是れ實に一個宗教の「デレムマ」であります、然るに拙者は人類の進化をも信じ、罪惡の實在をも信じ、宗教濟度の必要をも信じ、て居ります、是れ即ち「モニズム」が生命あり、意志あり、目的あるの絶

對實在か、生々、活々、進々、化々、しつゝあるを認むる所以であります、今少しく其意を述べますれば、元來知覺なく、多少の自由意志なきものには、罪惡はありませぬ、罪惡は人類が自己の不完全を自覺するの後に始めて發生する道義的感念にして一言に申せば、罪惡も亦進化の結果であります、かく申せば、罪惡は進化より生ずる自然の結果なれば、罪惡を犯す方が却て人類世界の利益になるか、この御反問もあるべけれど、斯く誤解せられては誠に困ります、先づ拙者の論ずる所を御靜聽ありて然るべきであります

抑も罪惡が人類進化の結果であつて、其の感念が最高進化に必要といふは、猶ほ人類状態の不完全が國家の建設に必要といふが如きものであり、ます人類の状態が不完全でなかつたならば、國家を建設するの必要も定めてなかつたらうと思ひます。世界古今の國家は、其の最初皆害惡防制の爲めに起りました。故に人類が害惡を感じなかつたら、國家を團結組織するの機會は、永く生じなかつたわけです。然るに國家が既に建設せられたる以上は、國家の目的は、害惡を防制するに止らず、更に之れより高尙なる積極的的使命を有し、經濟的、智力的

道義的の三大進歩を促進し、最大幸福を増進する。ここにになりました。されば罪惡は、人類が進化の或る程度に到達し、自己状態の不全を自覺し、濟度を要求せんが爲めに生じたるものなり。こ言はなければなりません。故に罪惡は、宗教的意義を以て之を言ふときは、人類普通の現象にして、悲むべきは罪惡でなく、罪惡に對する改悔の念が起らぬのであり、ます、否、改悔の念が起らぬのでなく、濟度の要求が起らぬのであり、ます、否、濟度の要求が起らぬのでなく、眞實の濟度を得ないのであり、ます、耶蘇基督が馬太傳第九章に、康強者、不需醫、負病者需

之、いひ又馬太傳第七章に、求則爾與尋則遇之、叩門則啓之凡求者得也、尋者遇也、叩門者啓也、いひしは、即ち此間の消息を洩らしたるものにて、基督教の他教に勝るは正に此點にあるかと思ひます、然らば濟度は何者が之を與へますか、自然進化の大法か、將た超自然的作用か、これは見様次第です、我々人類が本來内容的、先天的に活ける真理を我に有し、此の真理は精神上或る進化の程度に到達したる以上は、自然開發するものこそせば、即ち濟度も亦た自然進化の大法であります、若し又此濟度作用を外部から注入するものこそせば、即ち超自然

的作用であります、世の宗教家は禪學を除くの外、皆後説を主張して居ります、が私は前説を信ずるのであります、然らば我天理教はいかん吾輩は左の理由に依り我天理教を以て將來文明世界の信仰を司配すべきの資格ある大宗教と斷言す、第一佛教及び基督教が有する所の善美なる真理は我天理教悉く之を包含す、第二佛教及び基督教の缺點は我天理教に於て之を認めず、第三我天理教の教理は其の根本に於て進化説と一

致す

第四我天理教は現代文明の方針と一致して又能く之を高尙靈活の域に指導す

第五我天理教は一神教多神教凡神教の三面を有して猶ほ唯一教なり

第六我天理教は世界人類の靈的濟度を以て目的とす

第七世界宗教中神の至善と罪惡の實在とを能く調停して之が説明をなし得るものは我天理教に限る

第八世界宗教中此の世界に天國淨土を建立することを宣言するものは我天理教に限る

第九世界古來の大宗教は皆我天理教に入り其の一部となりて復活す

第九我天理教の濟度は活動事實なり

第十我天理教祖の人格は確に釋尊基督摩哈麥等の上に出づ

以上は唯々是れ大要を言ふたるのみにして、此外我天理教の善美なる點は勝げて説くべからず然れども斯く天理教を稱賛するのみにて其の教理を明示せざれば世人之を疑ふべし故に吾輩は端を收めて之を説くべし而かして我天理教が國家に對し文明に關するの説明は上述にて大略明了なるべしと恐

考するなり

天理教顯真論終

天理教を信仰なさる御方々は左の廣告を是非御覧被下

天理教御教祖御實傳

附御本席飯降伊廢先生略傳 定價 金 參拾錢

教導職 神道布教規範

特別正價金七錢、郵稅四錢

必携職布 教道話

特別正價金八錢、郵稅六錢

文學博士黒川眞頼大人序

古事記 講義 全參册 特別正價金七拾錢、郵稅拾六錢

贈正四位神道大家平田篤胤大人題字

祝詞式 講義 全貳册 特別正價金五拾五錢、郵稅八錢

文學博士中村清矩大人序

織原抄 講義 全貳册 特別正價金五拾五錢、郵稅八錢

故大勳位久邇官朝彦親王殿下御題

古語拾遺 講義 全壹册 特別定價 貳拾貳錢

神道本局 稻葉君著

葬儀式 全壹册 實價壹圓貳拾錢、郵稅拾錢

尊神家 大教宣布詔書義解 勅語 全壹册

必携 特別正價金七錢、郵稅四錢

尊神家 三條教大憲義解 全壹册 特別正價金六錢、郵稅四錢

唯日本 神道天理教大意 全壹册 特別正價金四錢、郵稅貳錢

天理教道話 全壹册 特別正價金貳拾五錢、郵稅六錢

破邪 天理教根本實義 全 特別正價金拾貳錢、郵稅四錢

御教祖御一代記 全壹册 特別正價金拾八錢、郵稅四錢

神道演說 全壹册 特別正價金八錢、郵稅貳錢

天理伊呂波歌 全壹册 特別正價金四錢、郵稅貳錢

教祖のをしる 全壹册 特別正價金貳錢、郵稅貳錢

○明治三十六年新版
各天理教會所在地明細簿
特別安價卅錢、郵税四錢

天理會本部神樂の圖

天理救助參考書
代金七錢、郵税貳錢

神國大道
正價七錢、郵税貳錢

明治三十五年九月新版

必携 天道教祝詞文集 全

附祭典式葬祭式。行列。圖式

正價參拾錢、郵税四錢

天理教 布教之柱石

一名教職の正宗
正價金拾貳錢、郵税貳錢

神佛 天理教討論演說

一名布教所家の玉手箱

正價貳拾五錢、郵税四錢

其他天理教教科書類色々並に墨筆精々安價に販賣可仕候に付各國諸君右之
廣告御覽の上御注文あらんとを願ふ

大和國山邊郡丹波市町大字三島天理教會本部門前

大賣捌書肆

木下書店

本部發行 神 德

正價五拾錢、郵税六錢

天理教眞實の御話

正代參拾錢、郵税六錢

新 版

中西牛郎著

一宗 教の研談

正價參拾錢、郵税四錢

井上清一著

一御 道の御話

正價拾五錢、郵税貳錢

眞木宥聲著

一布 教熱心血の涙

正價拾五錢、郵税四錢

名波數節著

一御 神樂歌釋義

正價拾七錢、郵税四錢

其他本部みやげ圖色々

明治三十六年十二月十日印刷
明治三十六年十二月廿八日發行

定價金四拾錢

演 者 中 西 牛 郎

奈良縣山邊郡丹波市町大字三島

發行者 木 下 松 太 郎

大阪市東區北久寶寺町一丁目八十一番屋敷

印刷者 濱 田 正 夫

大阪市東區北久寶寺町一丁目五十八番屋敷

印刷所 濱 田 日 報 社

電話東千參百參拾八番

明治三十六年十二月十日印刷
明治三十六年十二月十日發行

定價金四拾錢

演者 中西牛郎

奈良縣山邊郡丹波市町大字三島

發行者 木下松太郎

大阪市東區北久寶寺町一丁目八十一番屋敷

印刷者 濱田正夫

大阪市東區北久寶寺町一丁目五十八番屋敷

印刷所 濱田日報社

電話東千參百參拾八番

